

図2 セリフ体のイタリックは、独自にデザインされていて美しい

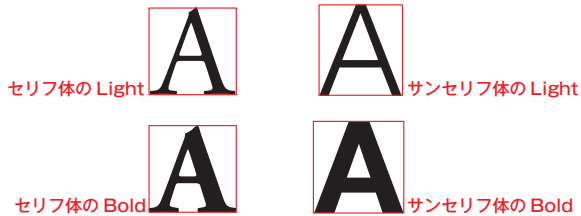


図1 サンセリフ体は線が全体的に太くなるので、文字の占める領域のなかでの線の割合がかなり大きくなるが、セリフ体は横線の太さがあまり太くならないので、サンセリフに比べるとあまり面積が増えない

# セリフ書体を活かしたデザイン

タイポグラフィーの明日が見える



## 【課題】

前のレッスンと同様に、イベント「TYPO EXPO」の開催を知らせるハガキをデザインしましょう。ハガキのサイズは148mm×100mmで横に使用します。使用できる色は白・黒・グレーのみです。このレッスンでは、イベントタイトルである「TYPO EXPO」にはセリフ体の書体を使ってください。その他の文字の書体は自由です。

## 【このレッスンで学ぶこと】

- 1 セリフ体の書体の特徴を理解しよう
- 2 セリフ体の主要な書体を覚えよう
- 3 セリフ体の文字の形の美しさを活かそう
- 4 サンセリフ体でデザインしたもの比べてみよう

## Lesson File

素材ファイル: 2-06\_start.ai

完成ファイル: 2-06\_end.ai

※付録のCD-ROMに、課題制作用のデータが収録されています。

## モダンなサンセリフ、伝統的なセリフ

セリフ体の書体には、線の端にヒゲのような「セリフ」とよばれる突起があり、縦の線が太く、横の線が細くなっています★1。したがって、文字の形にメリハリがあり、細部に微妙な表情があります。このレッスンでは、こうしたセリフ体の特徴を活かして、サンセリフの書体でデザインしたものと同じ内容をセリフ体でデザインしてみましょう。書体の違いと、そこから生じるデザインの違いを感じてみてください。

## 迫力を狙うよりは、シャープなデザインに

セリフ体についても、主要な書体を覚えておくことは必要です。細部まで柔らかな曲線が使われているGaramond★2に対して、Bodoniは比較的直線的で、太い部分と細い部分のメリハリがはっきりしています。このような特徴を理解していると、書体を選ぶときにデザインにあわせた書体を選びやすくなります。

サンセリフ体の太い文字は、文字としての面積が広く、迫力のある表現ができます。しかし、セリフ体は縦の線が太くても、横の線は細いままなので、太い書体を使っても、文字としての面積はそれほど増えません(図1)。したがって、迫力で見せるというよりは、形の美しさやシャープさで見せるという方向性の表現が適しているといえるでしょう。素材の長所を活かすということが、デザインにとってはとても重要です。

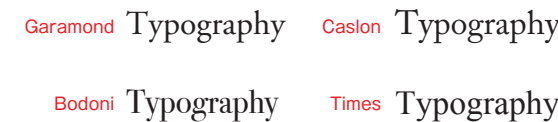
## 美しいセリフ体のイタリック

セリフ書体はサンセリフ以上に大文字と小文字の印象が異なります。大文字は直線が多くシャープな印象ですが、小文字は曲線が多く、柔らかな印象になります。もちろん、内容的に小文字で表現することが許される場合に限られますが、セリフ体の小文字の美しさは、デザインのに活かすことができます。

多くのセリフ体の書体は、イタリックにするのとさらに美しい曲線をもっています。イタリックは「斜体」と訳されることもありませんが、欧文書体のイタリックは正体の文字を単に斜めに変形したものではなく、斜体として美しく表現できるように、独自にデザインしたものです★3。単に斜めに変形したものはOblique(オブリーク)と表現するのが一般的です。このため、欧文書体のイタリックはデザイン的にも美しく効果的な場合が多く、これをデザインに活かすというのも一つの方法です。

セリフ体の書体の魅力は、比較的無機質なサンセリフに対して、豊かな表情をもっていることだといえるでしょう。その書体の美しさを十分に活かすことを目指して、自分自身のデザインに挑戦してみてください★4。

★1 代表的なセリフ体



★2 Garamond フランスで作られた書体なので、「ガラムン」と読む。

★3 斜体 日本語の斜体は基本的に共通の角度で斜めにしたものです。写植の時代には、レンズで傾けて印字することで斜体を作っていました。

★4 書体を活かした書体選び どのようなポイントに基づいて選択しても、間違いない。自分自身で書体を選択するポイントを見つけていくことが重要。自分流の書体選びのポイントを持つことで、書体を選びやすくなり、それが自分のデザインの特徴にも繋がってくる。